

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090500630		
法人名	社会福祉法人八心会		
事業所名	グループホームひまわりヒルズ		
所在地	北九州市小倉南区曾根北町4-31		
自己評価作成日	令和6年1月12日	評価結果確定日	令和6年3月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和6年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特別養護老人ホームひまわりの中にあり、特養の入居者やグループホームの入居者も行き来できる環境を整えて法人全体で入居者の対応を行っています。常に入居者に寄り添うことで信頼関係が生まれ、ここにて「安心」できる環境を提供し、支援できる体制を整えています。職員も入居者と寄り添うケアを目指して日々勉強しながらケアを行っています。また、特養の作業療法士と連携を図り、リハビリに力を入れ、平行棒内を歩行訓練行ったり、集団体操を行うことで入居者のADLの維持を目指して支援しています。新型コロナウイルス感染予防を行いながら少しずつレクリエーションや外出などを行っています。今後は、地域の方やご家族、医療機関との連携を図り、地域と共に良質なサービスが提供できるよう努力していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の新人研修や年度始めの全体研修で、理念の八つの心を共有し、法人の6つの委員会活動などを通じて理念の実践に努めている。入居者の傍に座ってゆっくり話を聞く対応に務め、自ら動かなくなった入居者に転倒のリスクや機能低下を防ぐ声かけを励行している。毎月入居者の暮らしぶりの写真を掲載したホーム便りを発行し、家族と楽しい時間を過ごしたクリスマス会を足がかりに今後もイベント当日に家族会を開催予定で、運営推進会議は家族や地域の方々から直に意見を伺う好機となっている。協力医療機関の訪問診療や医務室に常駐する看護師との連携で安心できる生活を支援し、1階ホールで開催される多様なイベントを楽しむなど、法人全体で理念を具現化し地域に密着したサービスを展開している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 にじ色/グループホームひまわりヒルズ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに貼り出しいつでも目につくことで自己を振り返れるようにしている。また、個人で自分の今できること、していきたいことの目標を立て少しずつでも理念に向かって進歩できるようにしていく。	法人の新人研修や年度始めの全体研修で、理念の八つの心を共有し、法人の6つの委員会活動などを通じて、理念の実践に努めている。今後は地域と連携し、駐車場で祭りを企画する予定である。	法人理念を念頭に、認知症高齢者グループホームならではの目標を話し合う機会を通じて理念の共有と実践を促進し、ホーム便りに掲載された入居者が笑顔になる暮らしの支援を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため、地域の方との交流は行っていない。近所のスーパーに職員と一緒に買い物に行ったりしている。	I 階ホールで、併設施設入所者とボランティアによる大正琴や切り絵、お茶会、ピアノ演奏を楽しみ、敬老の日は、近隣の保育園児から手作りのプレゼントが贈られ、合唱が披露されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、新型コロナウイルス感染予防のため、地域の活動には参加出来ていない。施設自体が商業地にあるため、今後は感染予防を行いつつ参加できるようにしていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、運営推進会議も行っている。ご家族様も少ない人数ですが参加してくれている。	全家族に会議開催を案内し、前回は家族4名や自治会長や民生委員、地域包括支援センターなどの参加があった。運営状況や参加者から要望のあった入居者のADLや食事形態などを報告し、事故報告書の内容について質問を受けている。会議録はエレベーターホールで公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	本庁の担当者の方や小倉南区地域包括支援センターの方に電話にて相談して行うようにしている。	日頃から連携に努め、担当部署に報告している。居室情報は市のホームページに掲載されている。今回のクラスター発生では職員も感染し、勤務表にその旨を記載するようにアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	特養の身体拘束適正化対策委員会に毎月参加している。施設内で研修を行い、常に身体拘束廃止に向けて取り組んでいる。	法人の身体拘束適正化委員会やロールプレイ研修で、適切なケアに取り組んでいる。言葉遣いに注意を促し、声の大きい職員には入居者の傍で話すように指導している。「家に帰りたい」には言動を見守り、家族の了解を得て夜間のみセンサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は、特養の身体拘束適正化対策委員会の中で検討や研修等を施設全体で行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今、権利擁護制度を利用している入居者はいないが、必要に応じて対応できるように研修に参加し学習したり、パンフレットなどを準備し説明できるようにしている。	パンフレットを整備しているが、日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用はない。随時活用を支援するために、事業や制度の内容やその違いについて学ぶ機会を設ける予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を中心に分かりやすい言葉で説明し理解、納得して頂けるようにしている。改定事項などは文書を作成、通達した上で説明も行い納得して頂くように徹底している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、ご家族様、職員の意見がくみ取れるようにしている。ご意見箱も1週間に1回法人理事長が開封し、意見がある時は、会議(事務所会議)に管理者も参加して内容をくみ取れるようにしている。	電話やLINEで家族に適時に報告し、毎月入居者の暮らしぶりを写真満載したホーム便りの発行で、意見の表出を促している。6名の家族の参加で、リースづくりに楽しい時間を過ごしたクリスマス会を足がかりに、今後もイベント当日に家族会を開催予定である。クラスター発生時は入居者の状況を個別に電話で報告し、家族からは慰労の声かけがあった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や申し送りノートなどを利用して職員の話を聞くよう努めている。	法人の多様な委員会に職員が参加し、会議内容を全職員で共有している。ユニット合同会議は研修やケアカンファレンスの場となり、入浴拒否の対応や食事の早出しなどを話し合っている。今後は正職員だけではなく、パートや派遣職員の参加を促す予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を設けて、管理者またはユニットリーダーが施設基準に従い評価して環境整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用には、人権侵害とならないように配慮を行っており、職員間に対してもグループホームの職員だけではなく特養の職員との交流などをレクリエーションなどを通じて行うようにしている。	資格ではなく人柄を重視した採用で、パートや派遣職員を含め、20代～60代の男女の職員が、子育て中や夜勤専従など個々の状況に応じて就労している。併設施設やユニット間の異動があるが、昼休みを休憩室でとり、ユニット間で協力し合って入浴を介助している。法人の6委員会に職員が参加し、併設施設職員と活動している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設で行われる研修に参加して啓発に取り組んでいる。	理念や運営規程に人権擁護や虐待の防止を明記し、入居者だけではなく職員に対するハラスメント対応を重要事項説明書で説明している。其々の研修を実施し、入居者及び職員の人権擁護に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・施設内研修や委員会への参加を促し個々のレベルを上げられるように、声掛けをおこなっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在は、新型コロナウイルス感染予防のため外部との交流はおこなえていないが、感染状況が落ち着き訪問など出来るようになれば、交流を行っていききたいと思います。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に寄り添い話を傾聴することで信頼関係を構築している。また、訴えが多い方の話を傾聴し、安心してもらえるよう支援している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた時や事前面談でご家族が何に困り、どうして欲しいのかなど意見を十分に伺う。その上で、入居者を中心に支援計画に反映している。専門職としての意見や今までの事例をもとに応えることで不安を軽減できている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	細かなアセスメント、面談を行い、ご本人とご家族の意向を掘り下げ必要としているサービスの提供ができるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、洗濯物をたたんだり、食事の副食を小鉢に入れてもらったりしてもらっている。「何かしようか」「何でも、手伝うよ」など声が上がリ、大変助かっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、新型コロナウイルス感染予防を行いながら、ご家族様にクリスマス会に参加してもらい、お正月のリースを一緒に作りに参加してもらっている。今後も感染予防を行いながら実施していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、新型コロナウイルス感染予防のため、面会時間は午後からと制限はあるが行えている。携帯電話をお持ちの方は、電話で友人と話をしたりされている。	面会は感染防止対策を講じ、午後から予約制とし、人数によって居室や1階のホールでお願いしている。時間の制限もあるが居室で話し込む家族もあり、携帯電話の充電を支援し、関係が途切れないように配慮している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、ほとんどの方がフロアで過ごされている。何人かの方、居室で読書をしたり、部屋の片づけをしたりされ、ご自分の時間も大切にしている。フロアで体操する際は「今から体操をするみたいよ。」と入居者同士で声を掛け合っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了されたかたにはその後も電話で連絡したりご家族に転院後の相談にもなっている。今後も継続して助言やアドバイスを行っていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気付いたことなどあれば、職員間で話あったり、申し送るようにしている。内容によってはご家族に相談、協力して頂くようにしている。	情報提供書で生活歴や家族構成、既往症などを把握し、日々の関りから思いや意向の把握に努めている。介護計作成担当者は、日頃から入居者の傍に座ってゆっくり話を聞いてほしいと、職員に話している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の機会を多く持ちご本人の歴史を探るとともに、以前利用されていた事業所などの方からの話を聞いたりした。ご家族からは写真やアルバムを見ながら昔の話を伺っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の出来ることに視点をおき、その方に合ったケア内容を検討し、環境作りや支援を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の意見や要望は面会時などに引き出しケアプランに反映し作成している。	アセスメント結果や本人や家族の意向、担当職員の気づきを集約し、現状に即した介護計画の作成に努めている。自ら動かなくなった入居者に、転倒のリスクや機能低下を防ぎたいと体操参加などを促すなどの声かけを励行し、お膳拭きをお願いしている。	家族の具体的な意見を組み入れ、より現状に即したケアを実践するために、家族に入居者の心身の状態を詳細に説明し、家族の納得や協力を得る介護計画の作成や見直しを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄、食事量などに関してはチェックシートにその都度記録している。気づきや特記事項などは介護記録(ケース)に記入している。また、申し送りノートを使用し情報の共有を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて受診の付き添いなどを行っている。また、必要な日用品などをご家族に代わり(遠方な方)買い物に行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防を行いながらボランティア方に切り絵教室やお茶会を行ってもらっている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連携は図れている。また、専門医による内服調整や治療を受けるための支援を行っている。	家族同行で入居前のかかりつけ医受診もあるが、殆ど入居者が協力医療機関の訪問診療や歯科医の健診を受けている。専門科受診はかかりつけ医の紹介状持参で受診し、併設施設の医務室に常駐する看護師が胃瘻管理や座薬挿入を担っている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は特養の看護師が兼務してくれている。また、何かある時は看護に内線することで診に来てくれる。また、夜間も特養で看護師が駐屯しているので診に来てもらっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されてからも状態を把握するため、電話連絡し、今までの生活に戻れるように病院関係者と情報交換を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時に重度化や終末期についての説明は重要事項説明書に沿って説明している。殆どのご家族は「まだ、わからない」との意見が多かった。今後は、主治医、看護師と連携を図り、チームで取り組んでいく。	毎年、重度化や終末期のあり方についてアンケートをとっている。ぎりぎりまでホームで生活し喀痰吸引が常時必要となり、医療機関搬送後逝去された方もあるが、現在まで看取りはない。法人の看取り委員会では研修や振り返りが行われ、希望があれば看取りを支援する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に関してはマニュアルを作成して研修を行っている。特養の事故防止委員会に参加している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上の避難訓練を行なっている。新型コロナウイルス感染予防のため、地域の方の参加は出来ていない。今後、感染状況が落ち着いて来たら、地域の方にも参加してもらえよう協力体制ができるようになっていく。	法人全体で年2回消防訓練を実施し、法人や各ユニットで夫々食料品、水や衛生用品を備蓄している。1月末に発生したクラスター発生から収束までの経験を活かしたBCPを策定中で、今月中に策定した自然災害発生時BCPの研修を予定している。	BCPの研修会やシュミレーションを通じてさらに現状に即したBCPの策定とともに、地域の理解や協力を得るために、策定されたBCPの取組みについて運営推進会議で報告されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩なので言葉遣いに注意し、声掛けを行っている。	理念に個人情報保持や尊厳の保持を謳い、日々言葉遣いに配慮している。氏名での呼称を基本としているが、職歴や夫婦での入居では「先生」、「お父さん」や「お母さん」もあり、同姓には下の名前で呼称している。洗濯物たたみや配膳などをお願いした方には、感謝の言葉を伝えている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で話を傾聴することでご本人が安心して意見が言える環境を整えていく。また、ご家族からの意見も反映されるようにしていく。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務に追われないようにできるだけ入居者と一緒に行うようにしていく。また、「できる」ことを行うことで自信に繋がるよう支援する。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や病院受診時に女性は、帽子をかぶったり、口紅を塗ったりされ、外出用の服に着替えて外出したりされている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房で調理され、ユニットにて入居者と共におかずなどをよそっている。ご本人の好みもあり、鮭フライク、納豆、梅干しなど、ご家庭で食事をしていた食べ物を食べてもらっている。	毎月おやつレクを楽しみ、カップラーメンも好評で、誕生日には職員がケーキを手作りしている。咀嚼や嚥下状態に応じた食形の食事を用意し、残っているご飯にふりかけやごま塩をかけようかとか、もう少しだけと、声をかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士によるメニューで栄養バランスのとれた食事を提供している。食量、水分量はチェック表により把握し、管理している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず、口腔ケアを実施している。口腔ケアは必ず洗面所で行い、出来る方はご自分で行ってもらう。磨き残しがないかを職員がチェックしている。また、訪問歯科と連携を図り、その方に合った口腔ケアを提供している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を見て時間があいている方は、声掛けしてトイレへ誘導している。また、早めに声掛けしてトイレに誘導することで不快感がないようにしている。また、個々の排泄サインも見逃さないようにしており、職員間で情報を共有している。	車いすでの介助が容易な広いトイレが設置され、時間毎やサインに応じてトイレでの排泄を支援している。トイレの場所が曖昧な入居者には夜間のみポータブルトイレ使用を支援したり、おむつ交換の抵抗には職員2人体制で対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量も日々チェックし、なるべく自然排便に繋がるように心掛けている。また、服薬コントロールが必要な方は、看護師と相談し早めの対応を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は個別にゆっくりと楽しんで頂いている。曜日などはある程度決まっているが、前日、入浴拒否、体調不良などがあった時は、翌日に入浴してもらっている。何人かの女性の入居者は、同性介助を行っている。	隣り合わせの浴室に個浴槽と座位での機械浴槽がそれぞれ設置され、6名の入居者が機械浴槽を使用している。好みのシャンプーの持ち込みもあり、入浴を楽しめるように支援しているが、入浴拒否にはどのようなアプローチが効果的か知恵を絞っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	清潔で心地よく休んで頂けるように空調の調節、毎朝のベッドメイキング、毎週のリネン交換で環境を整えている。夜間は巡視により安全で安心して休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、看護師に相談し、指示を受けることで状態や症状にあった服薬ができています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	プランターの花に水やりをしたり洗濯物をたたんでもらったり、役割を持って生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防を行いながら「これを買に行きたい。」と言われた時に曜日を決めて職員と一緒に買い物に行ったり、ご家族様に協力してもらい外出したりしている。	法人のハイエースで日を分けて全員が桜や鯉のぼりの見学に出かけたり、受診後家族と外食する入居者もある。なかには「(入居者と)他県に納骨に行くことができました」と家族から謝辞もあった。日頃は1階のホールでひまわりカフェやハロウィン、駐車場で花火大会を外出気分楽しんでる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している方は数名いるが、お金がないと落ち着かないため少額の金額をもってもらっている。「財布はどこに行った。」と言われることが多いが少額をご自分で管理してもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯電話を所持している方もいて直接、ご家族に電話したりされている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔、安全を第一に常に整理されている。ユニット内は季節に合わせた制作物を掲示し季節感を出している。	ユニットが開所するエレベーターホールは平衡棒が設置され歩行訓練の場となっている。左右にユニットが開所し、厨房の前にテーブルやイス、ソファが配置された居間は、腰掛けられる畳み敷きの間もある。お雛様や生花が飾られ、空調が管理され、清潔が行き届き、ゆったりとした空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットにはソファがあり、ゆったりとくつろげるようになっている。共有空間ではご自分の席に座ることが多い。時折「ここに座っていいですか。」と言われソファに座りテレビを視聴したりされる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は様々で、使いなれた家具を持ち込む方、新しく購入された方がいるがどのお部屋もご本人やご家族が好んで選ばれたものがそろっている。安全に配慮した家具の配置を提案している。	円形の建物のため、全居室の大きな窓から周囲を展望できる。カーテンが掛かったスペースは整理整頓され、入居時家族が購入した筆筒が動線に配慮して設置され、タンスやテレビ、ハンガーラックが持ち込まれている。筆筒の上に遺影が飾られた居室もあり、居心地良い設えとなっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は不要な物を置かず、全面に手すりを付け、安全に移動できるようにしている。トイレは分かりやすいように表示している。移動空間を広く取りシルバーカーや歩行器移動も速やかに出来るようにしている。		